

そらがく

前期号 (No. 40)
23. 7. 11 発行
現職研修委員会
総合的な学習部編集



子どもと共に創造する「知」

総合的な学習部長

金指 由香里

生まれて初めて、掌にホタルをのせ、愛おしげに黙ってじっとその光を見つめる子どもたち。

「先生、ホタルの光は熱くなくて不思議でした。」

感動を、そっと伝えてくれました。六月に行った山の学習で、時期がよく、幸運にもたくさん飛び交うホタルを観察することができたのです。

「おばあちゃんに聞いたけど、昔は城南でもホタルが飛んでいたそうです。城南の川がきれになって、ホタルが飛ぶといいなあと思います。」

総合的な学習の時間(けやき学習)で五年生A子は、こんな願いを持ちました。そのあこがれだったホタルと出会う夢が叶ったのです。ホタル飼育そのものは難しいですが、身近な自然と関わり自分もその中で生きていることを自覚し、自分なりにできることに気付く体験でした。ホタルを見ることができない環境の城南の子どもなりに、環境保全のシンボルともいえるホタルとかかわる場となり、その後の環境学習につながっています。

私が子どもの頃、夏の夜になると部屋いっぱい蚊

帳をつつて、家族みんなで寝ました。蚊帳の中はあまり風が通らず暑かったのですが、特別な雰囲気が出て、わくわくしていたのが不思議です。そして飛んできたホタルを、父が蚊帳の中に入れてくれ、それを追いかけてはしゃいだことを思い出します。しかし高度成長期の当時、「環境を守らなければいけない」という意識を子どもが持つことはほとんどありませんでした。身の回りにおける自然や生き物は、当たり前になっていた。あるものだと思っていました。ところが、現在は小学校高学年の子どもたちでも、その多くが「環境を守ることが大切だ」という認識を持っています。これこそ、これまでの環境教育の成果でもあります。子どもたちが活躍するこれから先の社会が「持続可能な未来」であるために、ESDの視点に立った総合的な学習の時間の実践が必要なのです。

平成十三年四月に岡崎市現職研修委員会「総合的な学習部」が誕生しました。(本部報「そらがく」もこの時に発行開始)翌年完全実施となり、十年が過ぎました。この十年の意義は、当時小学校三年生が、小中高と総合的な学習の時間継続的に学び続け、大学生や社会人となったということです。総合的な学習の時間で身につけた『生きる力』が、まさに世に出て歩き出したのです。どうその力が発揮されるのか期待したいところです。

小学校は今年度、中学校は来年度、新学習指導要領が

完全実施され、これまでの十年の検証の上に、新たな総合的な学習の時間が動き出します。

去る六月に岐阜で開催された日本生活科・総合的な学習教育学会で文部科学省の田村学教科調査官は、この総合的な学習の時間十年の成果として、①これまでの学習指導要領になかったナショナルスタンダードからの脱却が図られた。②教師中心の学習から子ども中心の学習へのパラダイムの転換が行われた。ことをあげています。また、文教大学嶋野道弘教授も、総合的な学習の時間は、教育の質的転換を提起してきた、と述べています。

岡崎市の総合的な学習の時間この十年は、ガイドラインの設定、各学校における身につけたい力の設定と地域カリキュラム、全体計画の作成等、確かな実践を伴って着実に進められてきました。そして現在、「環境学習」への取組みとESDの視点に立った各各校のカリキュラムの見直しが必須となってきました。特に、今年三月の東日本大震災は、持続可能な社会の実現に向けて多くの問題を浮き彫りにしました。防災教育はもちろん『人としてどう生きるか』という、総合的な学習の時間の目指す本質を振り返ることが大切です。今こそ、本当に必要なものは何かを明らかにして、子どもたちと教師が「知の創造」を進めていかなければならない時期にあるのです。

総合的な学習部紹介

◆平成二十三年度研究の方向

○研究主題

学び豊かな総合的な学習の時間の創造

○研究の重点

・ 体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に展開する。

・ 多様な学習集団や学習形態を工夫する。

・ 地域との連携を図り、地域の「人、もの、こと」を積極的に活用する。

・ 児童生徒に、自分のよさや成長を自覚させ、さらに伸ばしていきけるような指導の在り方を工夫する。

夏の研修案内

◆三教研夏季研修会

日時 平成23年8月2日(火) 12時～

場所 甲山会館・市民会館

内容 講演 目白大学教授 多田孝志先生

「21世紀に生きる人間形成を目指した学習方法、その考え方と進め方」

講演後、テーマ別の分科会において北野小学校 柴田多津彦先生が発表をされます。ぜひ御参加ください。

◆授業力アップセミナー ～基礎編～

日時 平成23年8月3日(水) 9時～

場所 総合学習センター 教育研究室2

内容 ・ESDの動向(報告者 竜南中 森田淳一先生)

・環境学習プログラム

(講師 新香山中 山内貴弘先生)

◆岡崎市教育研究大会

日時 平成23年9月2日(金) 13時45分～

場所 シビックセンター 体育集会室

先日提出された中間報告では、多数の熱意あふれる実践を垣間見ることができました。当日は鳴門教育大学教授の西村公孝先生から御指導をいただくことができるとの予定です。夏の間にはぜひ実践をまとめていただき、中間報告を提出されていなくてももちろん結構です。多数の方のリポート提出と積極的な御参加をお待ちしています。

日本生活科・総合的学習教育学会 岐阜大会

6月18日・19日の両日、岐阜市において、「第20回

日本生活科・総合的学習教育学会」が行われました。本大会では、提案授業・シンポジウム他、自由研究発表の場が設けられました。その中で、新香山中学校の山内貴弘先生・城北中学校の廣瀬浩司先生・上地小学校の林尚子先生・藤川小学校の高沢秀昭先生が実践発表をされました。全国の先生方に子どもたちの学びを中心に据えた学習を発信することができ、高い評価を得ました。

岡総研報告

六月二十一日(月) 十八時四十分より、城南小学校において岡崎総合的な学習研究会&生活科道場が開かれました。三十人を超える多くの参加者にお集まりいただき、熱心な議論が展開されました。講師として愛知教育大学の久野弘幸先生・名古屋学芸大学の三浦浩子先生・前福岡小学校長の桑木富士子先生をお招きし、的確なご助言をいただくことができました。

高学年・中学校部会では、幸田町立中央小学校の三浦先生の実践 小学校五年「スイカで広げる笑顔の輪」について、さまざまな視点からアドバイスが出されました。参加者からは、「切実感を育てること」「ゲストティーチャーとの出会わせ方」「子どもをつぶやくから学習を展開する方法」など、具体的に自分の実践でも役立てることのできる助言が多数出されました。久野先生からは、「失敗を恐れず、子どもたちの思いに沿った授業展開を楽しみにしています」と、温かいアドバイスをいただくことができました。九月十三日(木)に城南小学校にて第二回が開催される予定です。総合的授業展開でお困りの方は、ぜひご参加ください。きっと、温かいアドバイスがいただけます。

指導員のつぶやき

一学期は、八校訪問させていただきました。すべて

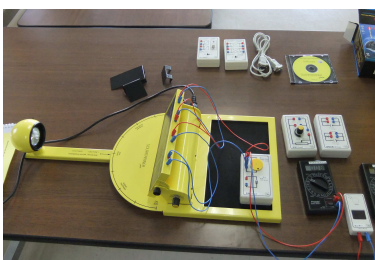
の学校で、頑張っている先生と輝いている子供たちの姿をみることができました。

「スーパージョーカーが、スーパーパーな実践を披露する総合ではなく、誰もが取り組める総合学習に取り組んでいくことが大事なんだ。」前出の全国大会で、何度も聞いた話です。そして、岡崎には、その姿があると私は思っています。

一学期もあわずか。総合的な学習での学びが、自由研究へと発展したり、自由研究が全体へ広がって二学期の課題につながったりする姿を期待していきたいと思えます。

目標や内容を各学校で決めていく「総合的な学習の時間」は、教師の想いと子供の想いで学びを創造していく教科です。先日、各校の主任宛で配布した「図で見る環境白書」も、それをどう使っていくかは、授業をする先生と生徒次第です。ぜひ、有効な活用をお願いします。「図で見る環境白書」は、まだ残部がありますので、必要数を指導員まで連絡をください。

先日、岡崎ロータリーより環境教育に活用してほしいということで「太陽光発電実験器」と「風力発電実験器」を寄贈していただきました。様々な実験ができ、そのデータはパソコンでも記録できる優れたもので、工業高校や職業訓練校で使われることが多い高度なものです。授業力アップセミナーの会場に展示しますので、今後の活用をお願いします。(倉地耕治)



太陽光発電実験器



風力発電実験器